支援金の申請開始

事業復活支援金 最大２５０万円

県の応援金も受付開始

経済産業省は先ごろ、新型コロナウイルス感染症の影響で、売り上げが月比較で大幅に減少した事業者に「事業復活支援金」の申請受付を開始しました。

同支援金は令和３年11月から令和４年３月のいずれかの月の売り上げ高が、過去３年間と比べ30％以上減収した月がある事業者が対象。50％以上減収した月がある法人は最大２５０万円、30％以上50％未満の場合は最大１５０万円の給付。個人事業主にはそれぞれ最大50万円、30万円が給付されます。

申請方法は電子申請のみ。ただし申請サポート会場（松山市三番町４）で補助員の電子申請サポートも受けられます。受付期限は５月31日まで。

また、県では同支援金に該当しない事業者に「第４弾えひめ版応援金」の申請受付も開始しています。

同応援金は、令和４年１月から３月と平成31年、令和２年から令和３年の任意の年の同月売り上げを比較して、30％以上減少または連続２ヶ月の同期比で15％以上減少した事業者が対象。※その他諸条件有。給付額は、法人は20万円、個人事業主は10万円。期間は５月31日まで。

【問】事業復活支援金・事業復活支援金事務局相談窓口☎０１２０・７８９・１４０（８時30分から19時）／えひめ版応援金（第４弾）コールセンター☎０８９・９０９・９２９４

第4弾 えひめ版応援金はこちら▼

事業復活支援金はこちら▼

「災害対策に役立てて」

マルヰ会四国地区会 移動式大型調理セット寄贈

災害対策支援を行うマルヰ会四国地区会（藤村泰雄会長（65））は、先ごろ、新居浜市にイワタニオリジナル炊き出しセット「デリバリーステーション」を寄贈しました。

同ステーションは、炊飯器、寸胴鍋、強火力ガスコンロ、コンロ台などが揃ったＬＰガス専用の移動式大型調理セットです。１度に１００人分の炊飯・汁物を同時に料理ができ、煮こぼれや風による火の立ち消えに対する安全装置も装備され、使いやすさと安全性を備えています。

保管時に場所を取らない省スペース設計と移動に便利なキャスター付きで、屋外での使用も可能。各種イベントや災害時の備えなど様々なシチュエーションで活用されています。

新居浜市危機管理課の神野文彰さん（41）は、同寄贈品を今後大切に保管するとともに、「防災訓練などを通して市民により防災に関心を持ってもらえるように活用したい」と話しています。

新居浜市提供

▲デリバリーステーションを受け取った石川市長（左）と藤村会長（右）

第一生命 松山支店

小・中28校に検査キット寄付

コロナ感染防止に向け支援

第一生命保険株式会社松山支社（松山市二番町３）は、新居浜市立小・中学校に抗原検査キット50個を寄付し、先ごろ寄贈式が行われました。

同キットは、新型コロナウイルス感染拡大防止の支援をしようと、市内16小学校、12中学校に寄贈されたもの。

新居浜市教育委員会事務局の中西輝宣さん（58）は「供給不足で手に入りにくいものなので、大変ありがたい。有効に使わせていただきたい」と話します。

▲寄贈された抗原検査キット

がんばる人

「株式会社gleam（グリーム）」 川上　伸二郎さん（46）

「コンテナを街のシンボルに」

様々な可能性に魅了

コンテナハウスや新築、リフォームなどの設計から施工、現場監督など、多岐にわたる仕事をこなす川上さん。

８年前にコンテナハウスに魅了され、同社の加藤社長の協力で昨年事業を立ち上げました。地域に貢献し、安く提供できるよう、可能な限り自社制作にこだわり、県内産の材料を使用しています。

「代々使え移動もできるなど、様々な利点があるコンテナハウスを広め、街のシンボルにしたい」と笑顔です。

新居浜市庄内町６丁目６の14（☎475523）

「ミサワホーム四国株式会社 愛媛東支店」 唐立　篤将さん（23）

「会話を通じてご提案を」

趣味は車で公園巡り

３人兄弟の末っ子で、小学４年から大学卒業まで野球一筋の青春を過ごした唐立さん。

人との会話が好きで、たくさんの人と出会い、長くお付き合いができる同社に入社。現在、新築の提案や展示場の案内を行っています。

小学校の物置に貼り出された「継続は力なり」の言葉を今でも意識し、資格取得にも挑戦しています。

「お客様の夢や不安など本音をお聞きして、解決策とより良い提案をしていきたい」と笑顔です。

新居浜市前田町19の25（☎330330）